

# 特撮室での検査介助にあたって －検査前訪問－

中放特撮室 発表者 逸見敏子  
中川蓉子

## I はじめに

特撮室でおこなわれる心カテ、血管造影を中心とする諸検査は、エコー等の開発にかかわらず診断度の高い検査として、増々巾広くとり入れられている。しかし、乳幼児を除くほとんどが、意識下で行われるため、患者の身体的、精神的苦痛は非常に大きい。

今までの看護を見直し、患者の検査に対する不安を軽減するための援助を考えてみた。短い限られた時間内に行うオリエンテーションだけで、患者は安心して検査にのぞめるのだろうか。特に入室と同時に「心配でよく眠れなかった」と訴える人、ベッド上で落ち着きなく頭を上げて周囲を見回したり、看護婦に付きそっていてもらいたい、手を握っていてもらいたいと訴える患者を目のあたりにして、次々と介助に追われるなかでの説明や言葉かけだけで患者は、納得できたのだろうか、ここに援助の一端を発表する。

## II 実 施

患者さんは、実際どのような気持ちで検査をうけ、何を感じておられるのか。

### 1. アンケートをとってみた。(資料1)

検査前の説明と患者の理解度について。

### 2. 検査前訪問

- ① 患者とのコミュニケーションをとることにより信頼関係をうる。
- ② 検査に対する理解を深めてもらい、患者本人にがんばる心構えをつくってもらう。
- ③ 事前に患者の状態、不安などを知ることにより、より安楽に検査をうけられるよう援助する。  
また、予測される事故の予防に努める。
- ④ とくに、患児の場合には、顔見知りになるとともに、母親との関係を深める。

検査内容(資料3) 訪問状況(資料4)

## III 結 果

1 に対して(資料2)

- ① 検査前オリエンテーションの不足。
- ② 検査中ひとつひとつの細かい説明が不足。
- ③ その他。

2 に対して

- ① 当日コミュニケーションが導入しやすく、検査中も細かな要求まで話してもらえる。
- ② 前もって不安な点、問題点が把握でき、ひとりひとりにあった看護目標をたてやすい。

(参考-訪問の一例)

- ③ 検査前後、病棟との連絡に不備の点が少しでも解決できるようになる。訪問が定着するに従い、訪問の要請があったり、又、訪問によって「安心してよく眠れた」というような反応がcaえてくる。

#### IV 評価・考察

ともすれば器械準備、点滴・手洗い介助等に追われ、患者に接する時間が少なくなりがちな看護者に対する切実な訴えを受けとめ、患者が理解できるような充分な説明の大きさと、むずかしさを改めて考えさせられた。検査前訪問の結果にもあるように、患者の安楽・不安軽減に多少とも成果がでている。しかし思うように訪問できないのが現状である。

その原因として

##### 1. 検査室側

- ① 検査介助件数の増加（昭和54年度 704 件 →55年度 832 件）
- ② 検査時間の延長や緊急検査

##### 2. 受け入れ側

- ① 予約の変更
- ② 訪問時、検査のオリエンテーションをまだうけていない。
- ③ 入浴・処置中などで面接できない。

等、病棟との連絡や、業務内容の見直し、訪問時間帯の検討をしていきたい。  
関係病棟のスタッフの皆様、助言をいただいた諸先生方に深謝いたします。

#### 参考文献

- ・心臓カテーテル法：今野草二，小柳仁共著 南江堂
- ・脈管の造影診断：石田修著 南山堂

#### 資料1 患者アンケート

期間55年 5月 1日～55年 6月 30日

人数22名

1. 検査は病室でうけた説明により、自分で理解していたものと比べてどうでしたか。
2. 検査中、もっと説明して欲しかったことはなんですか。
3. 検査中つらかったことや、不安だったことはなんですか。
4. 検査室の看護婦について感じたこと、気の付いたことなど書いて下さい。
5. その他なんでもお気づきのことを書いて下さい。

御協力ありがとうございました。このアンケートをもとに皆様の苦痛、不安がより少なく検査をすまされるよう努力していきたいと考えております。

一日も早い全快をお祈り申し上げます。

## 資料2 アンケート結果

### 1.について

- 説明のとおりであった…………… 9名
- らくだった…………… 5名
- 大変だった, 異なった…………… 8名

### 2.について

- 特にない…………… 7名
- ひとつひとつ説明してほしかった…………… 6名

### 3.について

- 疼痛…………… 4名
- 時間がかかる…………… 3名
- 造影剤の痛み…………… 2名
- 看護婦が見えないと不安…………… 1名

### 4.について

- よく気を配ってもらった……………19名  
(声かけ, 手を握ってもらった。氷をもらってうれしかった。)

### 5.について

- 他の話で気をまぎらわせてもらってよかった…………… 2名
- 部屋が暗い…………… 1名

## 資料3 検査前患者訪問時の覚書

### 1. 入室の際, 同室の方々にも挨拶をする。

### 2. 自己紹介

検査室の〇〇です。明日の検査に付きますので, よろしく願います。

### 3. 検査についてどのように聞いてられるか, 心の準備等応待にあたる。

◦不安, バックカテ留置, 水分摂取, 睡眠, 衣るい等

### 4. 検査について

◦大まかな内容, 検査室の様子, 経過時間, 医療スタッフ, 麻酔, 疼痛について

### 5. 患者を励ます

検査は大変ですが, 医師を信頼して, あなたがまずがんばって下さい。私共もできるだけ援助をしたいと思います。

## 資料4 検査別訪問状況

実施期間: 昭和55年7月~12月

検査名	麻酔	介 助 件 数	訪 問 件 数
心カテ・アンギオ	全	18	2
”	局	97	28
腹部 アンギオ	全	11	1

腹部アンギオ	局	107	19
脳アンギオ	全	2	1
”	局	108	11
上下肢アンギオ	全	2	1
”	局	31	1
その他	局	50	0
計		426	64

参考 訪問の一例

検査日：昭和55年12月12日

病棟：第一内科 33才 女性

病名：マルファン症候群

検査内容：右心カテーテル，色素希釈試験，心拍出量測定，右室造影

検査時間：9時36分～12時00分

問題点：疾病より，脊椎が著しく彎曲し長時間仰臥位でいることが不可能。

対策：スポンジ，枕など膝の下に入れたり，セミファーラーの体位をとり，無事検査を終了した。「終ってよかったですね。どうでしたか」という病棟看護婦の問いかけに，患者さんは，「心配したほど，背中がつかなく検査がすんでほっとしました」と言われた。「長時間よくがんばりましたね」とねぎらい，引継ぎをする。